

①みんなで育む『人づくり』

◎子ども科学館リニューアル事業
42,338千円

子ども科学館施設内部のソフト面を中心とした改修を実施します。先進的なデジタル投影作品を導入することで、施設の魅力を向上させ、来場者の増加と利用者の満足度向上を図ります。

◎小・中学校ICT環境整備事業
65,472千円

近年、様々な分野でIoTやAIの活用が進んでいる状況を踏まえ、児童・生徒がプログラミング教育を通して、将来、社会で活躍できることを目的に、学校のICT教育環境の充実を図ります。

◎小規模保育所整備事業 63,093千円

地域型保育事業のうち小規模保育所（民設公募）を1か所整備し、0～2歳児の確保方策を強化します。令和元年度秋の民設小規模保育所開設を目指します。

②みんなで築く『安心づくり』

◎地域密着型サービス整備事業
67,600千円

通い・訪問・泊まりのサービスを一体的に提供できる地域密着型サービスの小規模多機能型居宅介護施設を2か所整備するため、公募により決定した事業者に開設費用などを助成し、高齢者が住み慣れた地域で生活ができるよう支援します。

◎2歳児歯科健診事業 697千円

2歳児とその保護者を対象に歯科健診を実施します。歯科健診やブラッシング指導などを行い、保護者への仕上げ磨きや、基本的な生活習慣の定着を図り、むし歯有病者率等の減少を目指します。

◎中学3年生ピロリ菌検査事業 344千円

児童生徒に実施している学校健診に併せて、市内に通学する中学3年生を対象に、新たにピロリ菌検査を実施します。本検査を通して、生徒のがん予防や、生徒と保護者に対して予防医療への意識づけを行い、がん検診の啓発につなげます。

荒尾市の取り組みとお金の使い方

分かりやすく
解説します!



令和元年度 当初予算 (一般会計)

225億9千万円

[前年比 12億8千3百万円(約6.0%)の増]



なんか
かっこいい!



どんな
プロジェクトなの?



「あらお未来プロジェクト」

市の経営理念を「現場主義の徹底と市役所イノベーション」と定め、市の重点戦略「あらお未来プロジェクト」を着実に進展させるため、予算編成についても同プロジェクトの4つの方針に沿って重点化を図りました。一つ目は、子どもへの投資を強化する「みんなで育む『人づくり』」。二つ目は、健康・長寿の暮らしと誰もが活躍できる社会を目指す「みんなで築く『安心づくり』」。三つ目は、安定した雇用の創出や経済の活性化を図る「みんなで挑戦『夢づくり』」。四つ目は、未来志向の都市モデルを再構築する「みんなで創る『街づくり』」です。今年度も新しい時代にふさわしい豊かな荒尾を目指して、誇れるふるさと荒尾づくりに取り組んでまいります。

「あらお未来プロジェクト」 ますます加速しています!



③みんなで挑戦『夢づくり』

◎荒尾干潟水鳥・湿地センター開館記念イベント 4,000千円

荒尾干潟への来訪者の受け入れや情報発信などの拠点施設として、令和元年夏頃に荒尾干潟水鳥・湿地センターを開館します。開館記念式典を実施し、周知拡大を図り、施設の活用を促します。

◎ヤケ梨対策事業 2,000千円

近年の温暖化により、市特産の新高梨でヤケ果の被害が続発しています。その対策として、県推奨品種の梨の苗木と植え付け時に使用する堆肥等の資材の補助を行い、被害の軽減に努め、梨産地としての振興を図ります。

◎バスで行く「ものづくり企業視察ツアー」事業 152千円

市内の優れたものづくり企業を周知し、人材を確保すること目的に、進路指導をされる高校、高専、ポリテクセンターの先生たちや指導員を対象とした企業視察を行います。

④みんなで創る『街づくり』

◎防災情報伝達システム設備整備事業 223,520千円

災害時における防災情報を住民へ迅速かつ的確に伝達するための防災情報伝達システムを導入します(2カ年事業)。また、庁内の防災関係部署との連携をより迅速に行うため、防災情報を収集・共有が可能な総合防災システムも導入します。

◎地区防災計画策定事業 3,982千円

令和元年度は、各地区協議会からモデル地区を1地区ずつ指定し、連絡体制や資器材の管理などを示した地区防災計画を策定します。その後、モデル地区を中心に策定し、数年をめぐりに全地区の策定を目指します。

◎オンデマンド型相乗りタクシー実証実験事業 7,560千円

昨年度に実施したあらお相乗りタクシーの実証実験の結果を踏まえて、利用料金、運行範囲について、期間を延長し、再度実証実験を行います。

